

石油・化学業界 ～原油高と国内需要増が追い風に～

◆市場動向 ～生産低迷、輸入拡大、需要増加で市況は堅調～

17年の業界規模（前年値修正済み）：

原油生産量：1.9億トン（前年比4%減）、輸入量：4.2億トン（同10%増）、加工量：5.7億トン（同5%増）、企業（一定規模以上）売上高：13.8兆円（同16%増）、税前利益：8462億円（同52%増）

世界最大のエネルギー消費国である中国で、石油業界は石炭に次ぐ第二のエネルギー源を担う重要産業。さらに化学業界にとって、石油は製品の原材料として重要な役割を持つ。中国の原油消費量は世界2位、輸入量は1位の規模。17年は国内生産の低迷が続く一方で景気回復を背景に需要は堅調だったことから、輸入量は過去最高を更新。輸入依存度は7割近くに達した。この中で石油・化学業界は景気回復と製品価格上昇などを支えに総売上高は前年比で16%増加。税前利益は5割増に達した。原油高を背景に川上の原油開発・生産の業績は大きく改善。川中の石油化工、川下の化学企業（石油化学以外も含む）は生産コスト増に直面したものの、業界再編・構造改革の成果も加わり、概ね安定成長を維持した。

18年も堅調で、消費量を示す原油加工量は上期で前年同期比9%増加。国内生産は2%減と引き続き不振で、輸入増加により海外依存度は7割を超えた。原油開発・生産、石油化工、化学を含む業界全体で好業績が続く。もっとも、米中摩擦激化による国内需要減速のリスクは大きく、注意が必要。石油・化学業界に占める米中貿易規模は直接的には限られるが、関連需要を含めれば大きな影響を与えかねない。

◆業界の特徴 ～国有大手が寡占、需給は製造業全体に影響～

生産・販売面：

石油・化学業界は大きく、①油田探査・採掘、原油生産などの川上、②原油からガソリン、ナフサを含む石油製品を生産する石油精製・加工などの川中、③石油製品の流通や各種化学製品（石油・非石油を含む）を製造する川下——に分けられる。いずれも概ね国有大手による寡占。国産原油は陸上生産が多く、黒竜江省の大慶油田などが有名。原油の販売価格は国際相場に影響され、さらに原油を原材料とする精製、化学企業の経営を左右する。製油プラントの稼働率は約7割と低く、石油・化学製品の生産能力過剰が課題だ。販売価格が概ね低く、品質向上の余地は大きい。主力の軽油・ガソリン需要は自動車市場に左右されやすい。化学製品は基礎材料であるだけに、製造業全体の景気動向に影響される。

国際面：

中国の原油埋蔵量は世界全体の2%未満に過ぎず、世界最大の輸入国であり、国際マーケットへの影響力は大きい。主な輸入先は中東・アフリカ諸国で、シーレーンの確保と石油備蓄は重要事項。米国産の比率は僅かだ。中国企業は資源確保を目的に、時には周辺国との軋轢を生みながらも巨額の海外投資を継続。投資の主体は国有三大石油会社で、各社の海外生産比率は3～4割に達する。

政策面：

石油は規制産業に属し、市場・自由化の方向にはあるが、石油製品（特にガソリン）の品質・販売価格などは政府の管轄下にある。川上分野では国産原油の販売価格が一定水準を上回った場合に、「特別収益金」を石油会社から徴収。従価税方式の資源税も課税される。

◆主要企業、主な取扱銘柄 ～大手3社が主役、川上・川中・川下ともに堅調～

石油業界は国有三大石油会社が市場を寡占。化学業界も国有企業が強い。三大石油会社をみると、川上で最大手の中国石油天然気（00857）、川中・川下で首位の中国石油化工（00386）は企業規模で飛び抜けた存在。これに次ぐ中国海洋石油（00883）は川上に特化し、海底油田で圧倒的なシェアを持つ。3社は複数の上場企業を抱え、化学部門を含めて幅広く事業を展開。17年は原油高で川上部門の業績回復

が進み、同分野に強い中国石油天然気と中国海洋石油の利益率は大きく改善した。中国石油化工は主力の石油精製・化学、販売事業でコスト増に直面したが、販売量・価格が上向いて増収増益を確保。同社傘下で石油化工専業の中国石化上海石油化工（00338）は原材料コスト高で小幅増益だった。

兄弟会社を含む中国石油化工の系列企業はさらに、物流・貿易会社の中石化冠徳（00934）、エンジニアリングの中石化石油工程技术服務（01033）、プラント建設の中石化煉化工程（02386）などがある。中国海洋石油の系列には油田探掘サービスの中海油田服務（02883）、化学肥料大手の中海石油化学（03983）、エンジニアリングの海洋石油工程（600583）が有名だ。これらのうち油田サービス・エンジニアリングは過去数年間の石油大手による投資抑制の影響が残り、概ね業績不振が続いた。

また、化学業界も17年は販売価格上昇と国内需要増を背景に、全般的に業績は拡大した。専業大手をみると、ゴム製品担当の中化国際（600500）と肥料担当の中化化肥（00297）を傘下に置く中国中化集団、そして農薬大手である湖北沙隆達（200553）の親会社である中国化工集団という国務院直轄の大手2社が業界をリード。中化化肥は多額の減損計上が響いたが、残り2社は業績好調だった。

また、多くの民営、地方政府系の化学メーカーが上場。この中でプラスチックの材料となるPTAは恒逸石化（000703）と荣盛石化（002493）の両民営大手が大きなシェアを握る。東華能源（002221）はLPG輸入・販売専業で国内最大級だ。政府系大手のシェアも比較的高く、アパレル向けのPVCは中泰化学（002092）、基礎化学品のMDIとTDIは万華化学（600309）などが有力企業に名を連ねる。また、上海市政府系の上海華誼（900909）、国務院系企業傘下の北方華錦化学（000059）などは総合化学大手として存在感を放つ。こうした有力上場企業は基本的に好調な業績となった。新素材の開発も進み、康得新材料（002450）は裸眼3D用素材、方大炭素（600516）はグラフェン分野の競争力を高め、業績も好調だった。

主な取扱銘柄：

コード	社名	分類	通貨	売上高 増収率	純利益 増益率	時価総額	コメント
00297	中化化肥	レッド チップ	元	17,644 +17.9	▲2,208 赤字	7,024	国務院直轄の化学大手「中国中化集団」の傘下企業。カナダの肥料大手「ボタシュ社」も出資する。カリ・窒素・複合・リン酸を含む化学肥料の中国大手。中国で進む農業現代化から恩恵が見込める。減産・環境汚染対策の圧力が強まる中で、環境保護対策で強みを持ち、政策リスクは小さい。
00338	中国石化 上海石油 化工	H株	元	91,962 +18.1	6,143 +2.9	65,633	中国石油化工（00386）傘下の石油精製・化学大手。主力製品は燃料油を含む石油製品と、合成繊維・プラスチックを含む化学製品。強みとするエチレンで生産設備の大規模改修がほぼ完了し、環境保護対策が強化された。原油高による生産コスト増加が今後の懸念材料。
00346	延長石油 国際	レッド チップ	香港 ドル	16,725 ▲18.7	▲65 赤字	1,045	陝西省政府系の国内第4位の石油会社「延長石油」の傘下企業。延長石油化建【売付のみ】（600248）とは兄弟会社の関係。カナダなどに油田を保有し、石油貿易も展開。カナダの上場石油会社「ノーバス・エナジー社」を傘下に置く。天候悪化などで開発・輸送に狂いが生じ、足元で赤字が続く。
00386	中国石油 化工	ハンセ ン	元	2,300,470 +22.4	51,244 +9.8	965,272	超大型の国有石油会社。川中の石油精製・石油化学、川下の石油製品販売の規模は国内首位。中石化冠徳（00934）など多くの上場企業を傘下に置く。川上の資源開発で巨額投資を行い、川下の石油製品販売・パイプライン事業で民間資本の導入を進める。今後は天然ガスを成長分野に設定。
00857	中国石油 天然気	ハンセ ン	元	2,015,890 +24.7	22,798 +190.2	1,797,680	中国最大級の国有石油会社。国内最大級の「長慶油田」を保有し、海外資源開発もリードするなど、川上分野は他社の追随を許さない。「西気東輸」を含む国内の主要パイプラインを経営。燃料油や石油化学製品などの川中・川下分野の事業規模も大きい。パイプライン資産の再編観測が今後の注目点。
00883	中国海洋 石油	ハンセ ン	元	186,390 +27.2	24,677 +3,773.9	662,568	海底資源の開発・生産に特化する国有石油大手。事業エリアは全世界に及ぶ。非在来型を重視し、海外のオイルシェール事業に参入。中国勢の海外M&Aでは過去最大規模となるカナダ石油大手「ネクセン社」を買収した。川上分野に特化し、原油高は業績・株価面で追い風となる。
01033	中石化石 油工程技 術服務	H株	元	48,486 +13.0	▲10,556 赤字	37,616	中国石油化工（00386）の傘下にある石油エンジニアリング大手。国内外で油田の探査・探掘サービスを手がけ、油田開発基地や輸送設備などの建設も請け負う。資産再編を経て現在の事業に転換。開発需要低迷で業績悪化が続くも、原油市況の改善とリストラにより18年上期に黒字転換を達成。

コード	社名	分類	通貨	売上高 増収率	純利益 増益率	時価総額	コメント
01138	中遠海運 能源運輸	H株	元	9,505 ▲3.1	1,775 ▲8.2	18,472	海運最大手「中国遠洋海運」の中核企業。再編を経てグループ内のタンカー輸送に特化し、原油・LNG輸送を主力とする。沿海の原油輸送で50%以上のシェアを持つ。LNG輸送は国内有数の規模で、17年末で16隻のLNG船を運用。20年までにさらに22隻増える見通しだ。
02386	中石化煉 化工程	H株	元	36,209 ▲8.1	1,130 ▲32.4	37,948	石油・石油化学・石炭化学プラントのEPC（設計、調達、施工）サービスで国内最大手クラス。兄弟会社の中国石油化工（00386）を含む三大石油会社が主要顧客。設計・コンサル・技術供与や関連設備の製造なども展開。国内需要の回復を受け、新規受注が増加。親会社からの大型案件も。
02880	大連港	H株	元	9,032 ▲29.5	501 ▲5.7	22,514	東北部屈指の国際港「大連港」を運営する地元政府系企業。招商局港口も2位株主に名を連ねる。港湾事業はコンテナに加え、自動車、石油などをカバー。兄弟会社の錦州港務（900952）とともに、省政府主導の再編が進む。また、日中韓FTAの代表的なテーマ株といえる。
02883	中海油田 服務	H株	元	17,379 +15.2	33 黒転	54,218	海底油田サービス大手。中国海洋石油（00883）とは兄弟会社の関係にある。掘削リグ、各種作業船、石油タンカー、物理探査船などを保有し、油田開発に関する各種サービスを提供。国内の開発需要低迷で業績不振が長期化。収益回復に向け、インドネシアを含む海外事業の強化に取り組む。
03983	中海石油 化学	H株	元	9,800 +15.2	50 黒転	14,107	国内最大級の窒素肥料メーカー。代表的な窒素肥料である尿素のほか、リン酸肥料、カリ肥料を生産・販売する。原料の天然ガスを兄弟会社の中国海洋石油（00883）から安定調達できる点が強み。増産と製品価格の上昇で、18年上期の業績は大幅に回復。複合肥料の販売量は17年通年を超えた。
000059	北方華錦 化学	深セン A株	元	33,714 +15.8	1,845 +2.3	12,597	国務院系の機械大手「中国兵器工業集団」に属する化学メーカー。遼寧省を本拠とし、ディーゼル油・船舶燃料やエチレン、合成樹脂など石油・石油化学製品を生産。尿素など化学肥料も扱う。国内有数の重工業地帯である東北地域を主力市場とし、地理的メリットが見込める。
000703	恒逸石化	深セン A株	元	64,284 +98.3	1,622 +95.3	43,917	浙江省に本拠を置く民営の化学大手。プラスチックの原材料となる高純度テレフタル酸（PTA）に加え、PETチップ、PETボトルなどを生産し、国内有数の生産能力を持つ。業界再編による需給改善と景気回復を追い風に、PTA製品の増産が好業績を牽引。18年通期も好調が続くそう。
002092	中泰化学	深セン A株	元	41,059 +75.7	2,402 +30.3	20,164	新疆ウイグル自治区政府系の総合化学メーカー。中国有数のクロル・アルカリ企業であり、主力製品の塩化ビニル樹脂（PVC）の生産能力は国内トップクラス。川下のビスコース、レーヨンも手がけ、国内各地の繊維・アパレル企業を顧客とする。川上・川中・川下のサプライチェーン統合を推進。
002221	東華能源	深セン A株	元	32,678 +63.6	1,063 +126.2	16,151	江蘇省に本拠を置く民営のLPG（液化石油ガス）大手。LPGの輸入・販売量は国内最大級を誇る。大規模なLPG輸入・加工基地を持ち、沿海部の市場を幅広くカバー。また、プロパン、プロピレン、ポリプロピレンを含む石油化学製品も生産する。
002450	康得新材 料	深セン A株	元	11,789 +27.7	2,474 +26.1	売停	新興の民営化学メーカー。ディスプレイ用光学フィルム、家電・自動車用などの装飾膜、断熱フィルムを含む光学材料の製造販売を主力とする。成長分野として電気自動車用の炭素繊維に進出。裸眼3D用素材では韓サムスンと提携した。中国発のイノベーション企業として海外の評価も高い。
002493	荣盛石化	深セン A株	元	70,531 +55.0	2,001 +4.2	78,406	民営の総合化学メーカー。汎用プラスチックの原材料となる高純度テレフタル酸（PTA）の国内大手。PTAの原材料となる芳香族化合物から、最終製品の化学繊維の生産を含む一貫体制が強み。国内PTA生産能力の3割を占める。浙江省で建設中の大規模工場は19年始めの生産開始を見込む。
200553	湖北沙隆 達	深セン B株	元	23,820 +7.9	1,546 +318.9	36,368	国有化学大手「中国化工集団」の傘下にある農薬・化学工業品メーカー。湖北省に本拠を置き、殺虫剤、除草剤、苛性ソーダなどを生産・販売する。親会社からの資産注入を受け、農薬世界大手のイスラエル企業「ADAMA社」の完全買収を完了。今後の買収効果が期待される。
600309	万華化学	上海A 株	元	53,123 +76.5	11,135 +202.6	134,552	山東省煙台市政府系の大型化学メーカー。主力製品はベンゼンを原材料とするジフェニルメタンジイソシアネート（MDI）と、液化石油ガスから作られるトルエンジイソシアネート（TDI）。プラスチック、塗料などに用いられ、世界のMDI市場で大きなシェアを握る。
600346	恒力石化	上海A 株	元	22,288 +15.8	1,719 +45.7	90,319	遼寧省に本拠を置く民営の化学繊維メーカー。主力製品はポリエステル長繊維、工業繊維、PETチップなどで、繊維・アパレル、食品メーカーなどに納入。海外メーカーから先進設備を導入する。親会社から世界最大級のPTA生産基地を買収した。

コード	社名	分類	通貨	売上高 増収率	純利益 増益率	時価総額	コメント
600500	中化国際	上海A 株	元	62,466 +16.0	648 +245.9	16,864	国有化学大手「中国中化集団」の中核子会社。中化化肥（00297）とは兄弟会社の関係にある。天然ゴム、各種ゴム化学製品、水溶性塗料、農薬などを生産・販売。各種化学品の貿易事業も展開する。国有企業改革のテーマ株として、親会社からの資産注入・再編の可能性も。
600516	方大炭素	上海A 株	元	8,350 +248.6	3,620 +5,267.6	44,410	民営コングロマリット「方大集団」傘下の炭素素材大手。炭素や新素材「グラフェン」を材料に、グラファイト電極や耐火用炭素繊維などを生産・販売。精錬、エネルギー、化学、機械、医療など様々な用途がある。新素材「グラフェン」に関する代表的なテーマ株といえる。
600583	海洋石油 工程	上海A 株	元	10,253 ▲14.5	491 ▲62.7	33,266	海洋エンジニアリングの国内大手。中国海洋石油（00883）とは兄弟会社の関係にある。海底油ガス田の開発・生産・輸送設備に関するEPCI（設計・資材調達・建造・据付）でアジア最大級。同分野で世界大手の米フルーア社と提携する。開発需要低迷で業績悪化が続き、収益改善策が待たれる。
900909	上海華誼	上海B 株	元	43,739 +4.4	619 +48.6	20,254	大型コンビナート「上海化学工業区」を本拠とする地元政府系の総合化学メーカー。15年の再編を経て、全体上場を果たした。主力事業は石油・石炭化学、精密化学、「双銭」ブランドのタイヤなど。同工業区はアジア最大の石油化学コンビナートを目指し設立された工業パークとして有名。

※売上高・純利益などはすべてブルームバーグ提供の数値であり、当社HPと異なる場合がある。すべて17.12期、単位は百万。

※時価総額は18年9月26日の終値に基づきブルームバーグから算出、単位は百万HKドル。換算レートは1元=1.1HKドル、1米ドル=7.8HKドル。

◆注目されるトピックス ～構造改革と原油高に期待、米中リスクに注意～

構造問題は今後も重要なテーマに：

過剰設備・在庫、品質面で海外産に劣る国産品、輸入超過、環境問題など、両業界は川中・川下分野を中心に構造問題を抱える。これらの解決を目指す構造改革は今後も重要な投資テーマとなろう。焦点の国有企業改革は石油大手3社を含む大型国有企業で、民間資本導入やパイプラインを含む資産の再編・統合が注目されよう。さらに中小零細企業や老朽設備の淘汰、M&Aを通じた業界再編、製品の高付加価値化、石油製品価格の市場化なども中長期的に進む見通し。特に石油製品は20年に導入される新排ガス基準「国6」への対応が重要に。炭素繊維やグラフェンを含む新素材開発競争も強まろう。

国際原油相場の緩やかな上昇に期待：

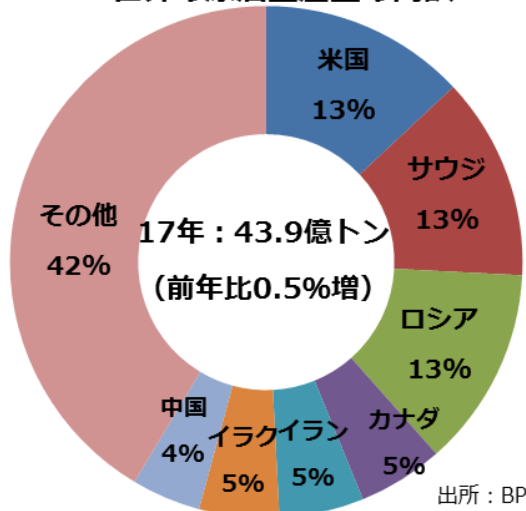
政府は国際相場の動向などを踏まえ、最大で月3回は石油製品価格を調整できる。このため、代表的指標のWTIは両業界にとって重要な変動要因だ。原油相場は16年初めに底入れし、その後は世界経済の拡大、OPECの協調減産などを支えに、基本的に上昇トレンドが続く。急激な原油高は川中・川下の採算性悪化に繋がるが、緩やかな上昇は業界全体に追い風となる。14年夏場から始まった長期原油安の再来を防ぐためにも、原油相場の安定上昇にはOPEC減産継続や中東情勢の安定化、“世界貿易戦争”回避などが不可欠といえよう。

短期的には米中摩擦リスクに注意、長期的には世界最大の消費国へ：

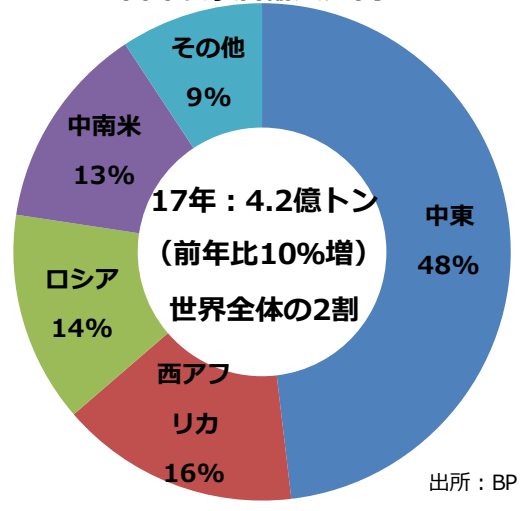
すでに中国経済は「新常态」（ニューノーマル）に移行し、鉄道網整備や電気自動車普及なども考慮すると、この先、原油消費量の高い伸びが期待できない。また、米中貿易摩擦で双方が輸入品に巨額の関税を課せば、石油は製造業の基礎素材であるだけに需要減少が懸念され、注意が必要だ。それでも専門機関の予測によると、中国は35年までに米国を抜いて世界最大の消費国となり、年間消費量は約7.5億トンで安定する見通し。消費の伸びは年平均で2%台に減速するものの、国内生産の減少から輸入依存度は今後も上昇する可能性が高く、海外資源の確保、非在来型資源の開発が益々重要になる。

（中国部・畦田）

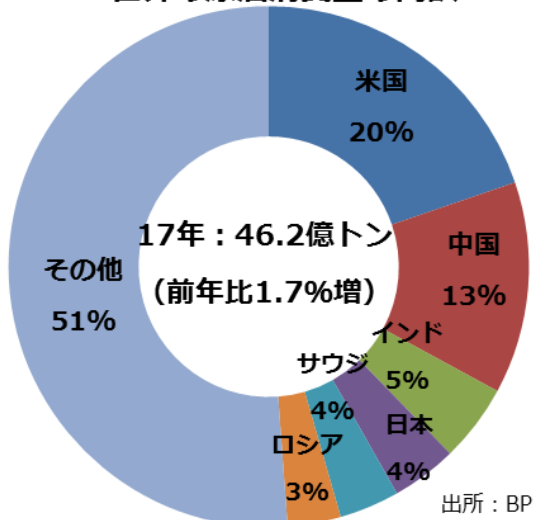
世界の原油生産量の内訳



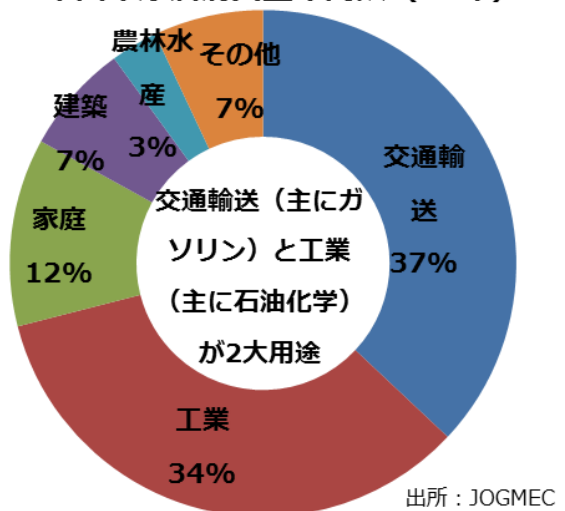
中国の原油輸入先内訳



世界の原油消費量の内訳



中国の原油消費量の内訳（16年）



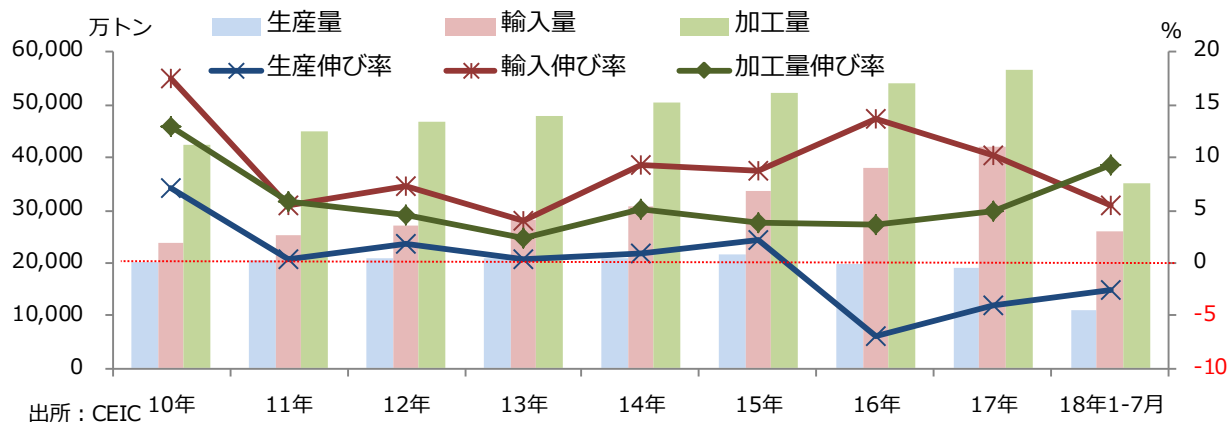
国際原油相場（WTI）と国内ガソリン卸売価格の推移



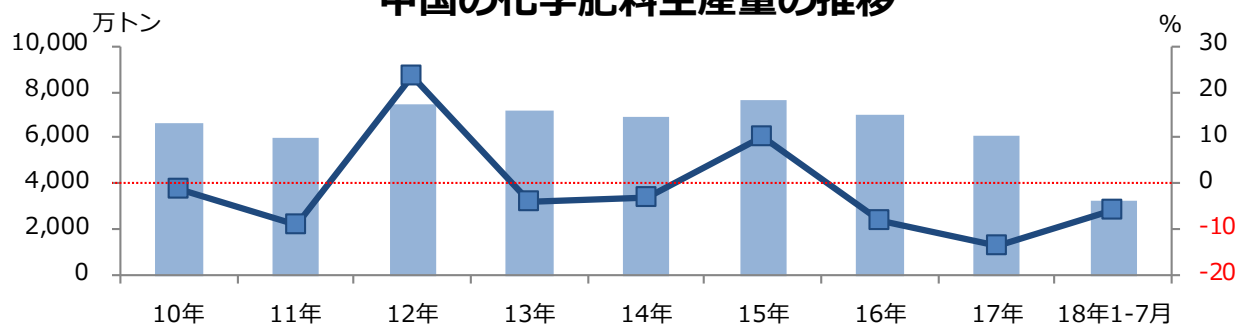
中国の原油生産・輸入・加工量の推移

国内生産の低迷を補う目的で輸入拡大は続き、輸入量はすでに生産量を大きく上回る。

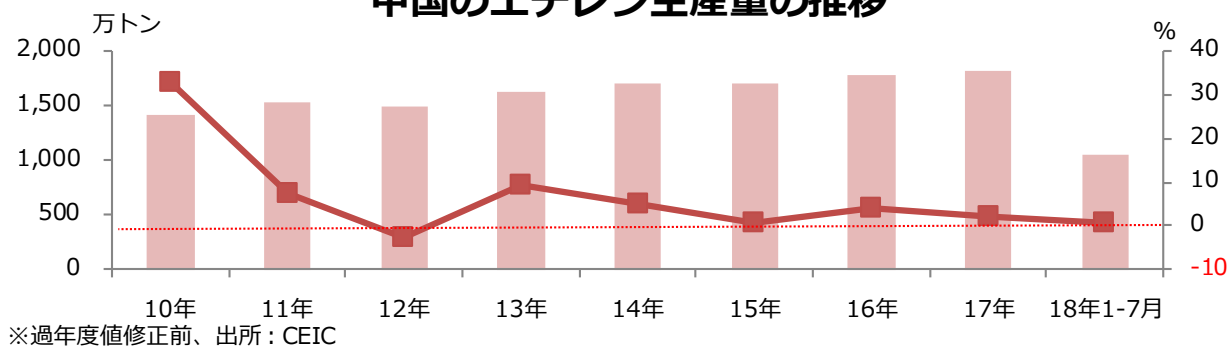
加工量はモータリゼーションの進展、堅調な国内経済を背景に緩やかな増加が続く。



中国の化学肥料生産量の推移

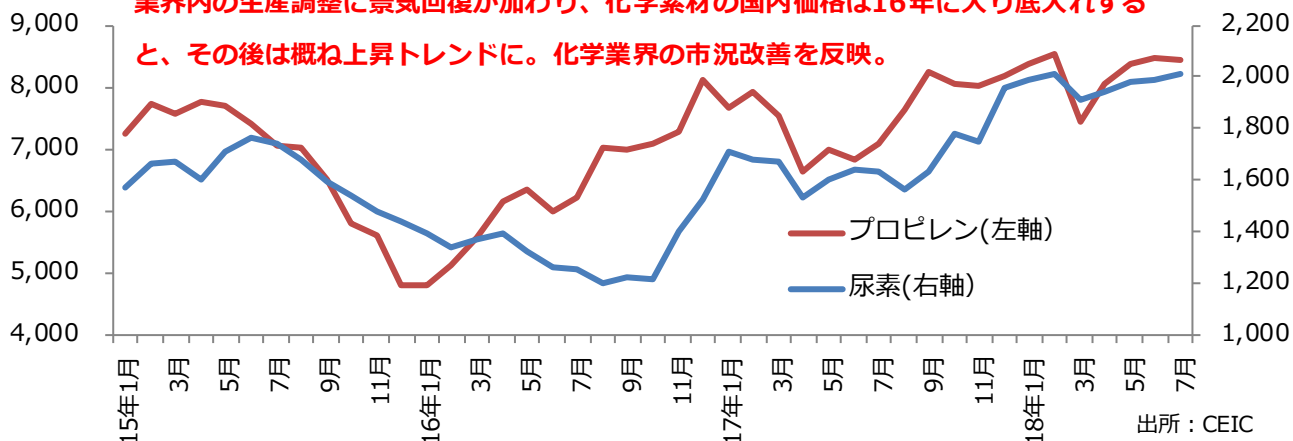


中国のエチレン生産量の推移

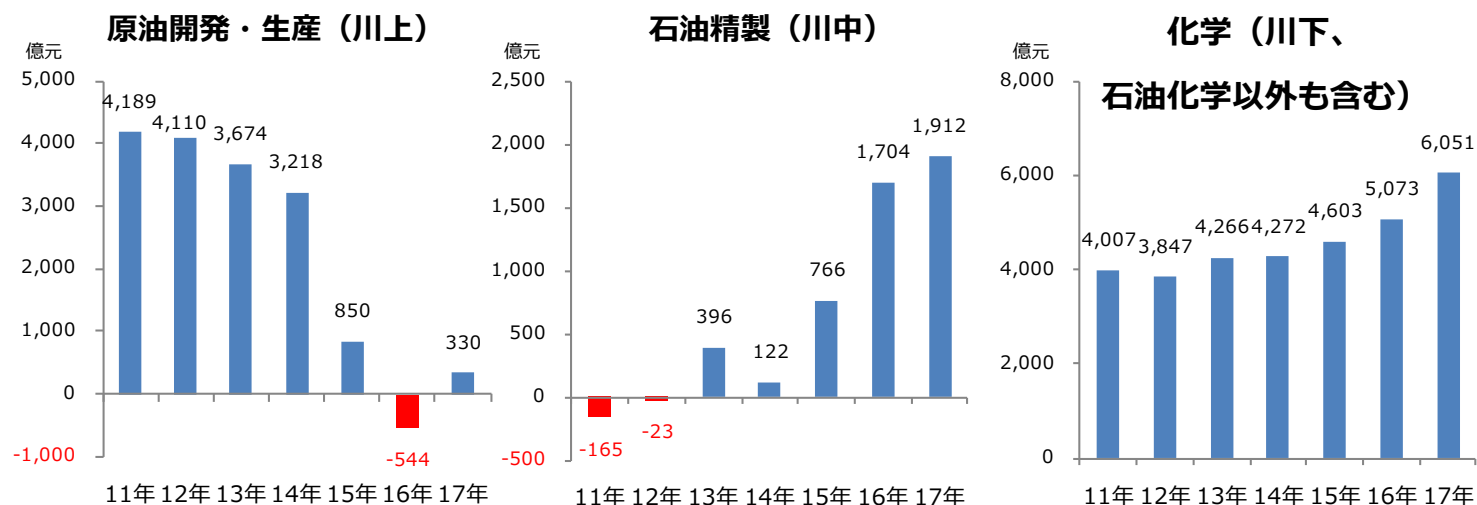


中国の化学素材の市場価格（元/トン）

業界内の生産調整に景気回復が加わり、化学素材の国内価格は16年に入り底入れすると、その後は概ね上昇トレンドに。化学業界の市況改善を反映。



中国の石油・化学業界の税前提利益



石油・化学業界全体の売上高（17年）の内訳は川上が0.9兆元、川中が3.4兆元、川下が9.1兆元を占める。原油価格の上昇は川上部門の増益要因になるも、調達コスト増で川中・川下部門の減益要因になりやすい。16年までは原油価格の低迷により、川上の不振と、堅調な川中・川下という状況が続いた。

出所：中国石油新聞中心

中国の三大石油会社の原油・ガス生産規模

企業	指標	09年	11年	13年	15年	17年
中国石化 (00386)	原油・ガス生産量（MBOE/日）	1,035	1,116	1,213	1,293	1,230
	うち原油比率（％）	87	79	75	74	65
	探査・生産費用（億元）	621	721	1,011	638	424
	平均可採年数	10.71	9.74	8.86	6.81	5.48
	原油・ガス確定埋蔵量(MMBOE)	4,042	3,966	3,923	3,216	2,457
中国石油 天然気 (00857)	原油・ガス生産量（MBOE/日）	3,276	3,522	3,836	4,093	3,994
	うち原油比率（％）	71	69	67	65	61
	探査・生産費用（億元）	1,328	1,638	2,243	1,489	1,613
	平均可採年数	18.23	17.30	15.98	14.35	13.92
	原油・ガス確定埋蔵量(MMBOE)	21,803	22,237	22,374	21,442	20,296
中国海洋 石油 (00883)	原油・ガス生産量（MBOE/日）	624	909	1,128	1,358	1,288
	うち原油比率（％）	82	78	81	83	83
	探査・生産費用（億元）	463	737	2,448	618	527
	平均可採年数	11.68	8.76	9.99	8.06	9.48
	原油・ガス確定埋蔵量(MMBOE)	2,659	2,907	4,114	3,996	4,456

※MBOE＝千石油換算バレル、MMBOE＝百万石油換算バレル、出所：ブルームバーグ

当社の概要

商号等 内藤証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第24号
 本店所在地 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1丁目5番9号 主な事業 金融商品取引業
 資本金 30億248万円(平成30年3月末現在) 設立年月 昭和18年4月
 加入協会 日本証券業協会 (一社)第二種金融商品取引業協会
 指定紛争解決機関 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター
 連絡先 ご質問がございましたら、下記部支店までご連絡ください。

リスク等重要事項のご説明

リスクについて

〈株式〉株価および為替相場(特に外国株式の場合)の変動等により損失が生じるおそれがあります。
 〈債券〉債券は市場金利の動向や発行者の信用状況等によって価格が変動するため、損失を生じるおそれがあります。さらに外国債券は為替相場の変動などにより損失が生じる場合もあります。
 〈投資信託〉組み入れた株式や債券など、有価証券の価格変動および為替相場の動向(特に外国通貨建て有価証券等を投資対象としている場合)等により投資元本を割り込むおそれがあります。
 〈株価指数先物・同オプション〉対象とする株価指数の動きにより損失が生じるおそれがあります。加えて、建て玉代金に比べ少額の委託証拠金での取引が可能であり、株価指数の変動によっては損失額が委託証拠金を上回る(元本超過損)おそれがあります(オプション買方の場合には買付代金とコストの合計額に限定されます)。

手数料について

〈株式〉①対面取引の場合、i) 国内株式は約定代金に対して最大1.15%(税抜き以下同じ、但し最低2,500円)。ii) 現地委託取引による外国株式は売買金額に対し最大0.80%(但し買付け時のみ最低500円)の国内手数料をいただきます。加えて、現地手数料として米国株式で外貨約定代金の最大0.50%、香港株式で同0.25%(最低50香港ドル)、上海・深セン株式で同0.50%必要となるほか、各証券市場によってSEC Fee、印紙税や取引所税等の費用が掛かる場合があります。また、為替に関しては内藤証券が決定したレートを用います。iii) 国内店頭(相対)取引による外国株式は当社提示の取引価格の中に手数料等(諸費用を含む)をあらかじめ加味しております。また為替は上記同様、当社が替レートを適用します。②コールセンター取引の場合、i) 国内株式は約定代金に応じて最大31,000円(最低2,500円)。ただ、月間取引回数等による割引あり。ii) 外国株式は対面取引と同様です。③インターネット取引の場合、i) 国内株式は手数料プランが複数に分かれており、この欄に表示するのが難しいため、詳細は当社HP(<http://www.naito-sec.co.jp/>)にてご確認ください。ii) 現地委託取引による外国株式は売買金額に対して最大0.40%(但し買付け時のみ最低500円)の国内手数料をいただきます。また現地手数料並びに為替レート等は対面取引と同様です。なお、インターネット取引では米国株式及び国内店頭取引による外国株式の取り扱いを行っていません。
 〈債券〉国内債券については売買委託手数料表をご確認ください。また、相対取引による外貨建て債券の売買に関しては当社が提示する価格の中に手数料等(諸費用を含む)をあらかじめ加味しております。円貨と外貨を交換する際には、外為市場等の動向をふまえて当社が決定した為替レートを用います。
 〈投資信託〉商品により異なりますので、詳細は「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。
 〈株価指数先物・同オプション〉i) 株価指数先物は約定代金に対して最大0.08%。ii) 株価指数オプションは約定代金の最大4.0%(但し最低2,500円)。

◆本資料は、公表されたデータ等信頼できると考えられる情報に基づいて内藤証券が作成し、また記載された見解等の内容は全て作成時点のもので時間の経過とともに不正確となる場合があります。過去から将来にわたって、その正確性・完全性を保証するものではありません。内容は今後予告なく変更することがあります。◆本資料に基づいた投資によって発生する損益は全てお客様に帰属します。内藤証券は、故意または重過失がない限り、責任を負いません。◆本資料により提供される情報の著作権等の知的財産権は、引用部分を除き、全て内藤証券に帰属します。お客様は、事前に内藤証券の書面による同意なく、本資料の内容及び情報を、複製、譲渡、修正、変更または転送等の行為をすることができません。

本 社 大阪市中央区高麗橋1-5-9 ☎06-6229-6511

東 日 本 地 区

東京第一営業部 ☎03-3666-5541	金 沢 文 庫 支 店 ☎045-780-5021
湘南サテライト ☎0466-55-3161	足 利 支 店 ☎0284-22-1234
東京第二営業部 ☎03-3666-7137	伊 勢 崎 支 店 ☎0270-25-3780
神 田 支 店 ☎03-6361-9191	伊勢崎駅前サテライト ☎0270-25-3780
三 鷹 支 店 ☎0422-71-1251	焼 津 支 店 ☎054-621-1311

西 日 本 地 区

本店営業部 ☎06-6229-6904	和 歌 山 支 店 ☎073-423-6211
住 道 支 店 ☎072-889-5236	有 田 支 店 ☎0737-52-7110
寝 屋 川 支 店 ☎072-822-6333	田 辺 支 店 ☎0739-22-4678
金 剛 支 店 ☎072-365-1901	新 宮 支 店 ☎0735-22-8151
樺 原 支 店 ☎0744-28-4711	高 松 支 店 ☎087-822-0105

インターネット

☎0120-7110-76
succe-s@naito-sec.co.jp

コールセンター

☎0120-20-9680

内藤証券